

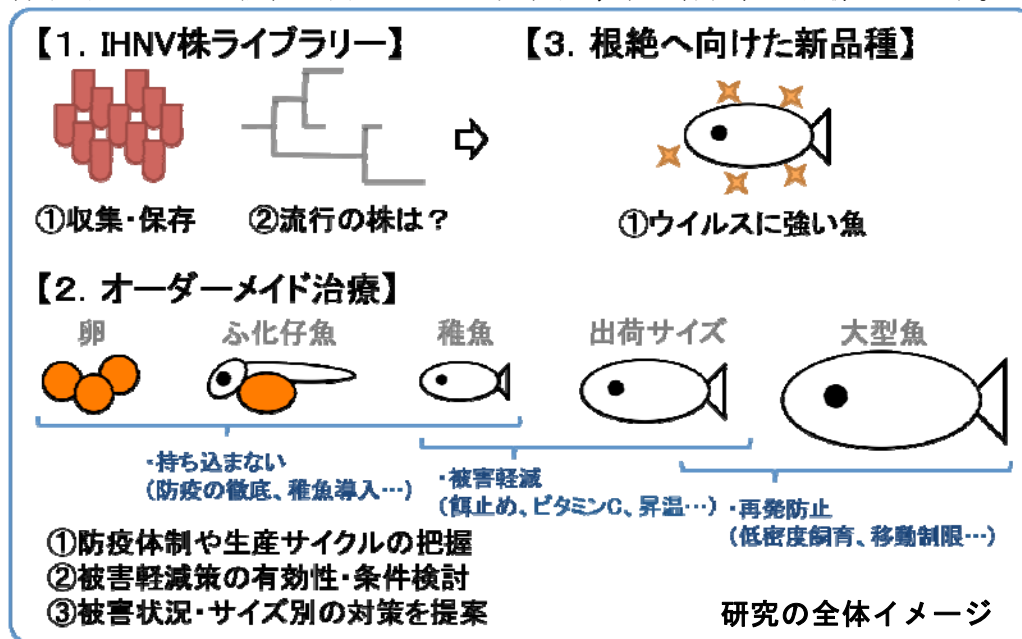
養鱒業の重大疾病 IHN の根絶に向けた研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成 29～31 年度)

担当：水産技術研究所 富士養鱒場 木南竜平・鈴木基生

【研究の背景とねらい】

- ・静岡県は日本一のニジマス生産量を誇る全国有数の養鱒県ですが、病気の発生が養鱒経営を不安定にしており、中でも、40年以上も前に海外から侵入したウイルス病 IHN（伝染性造血器壊死症）は、現在でも最も大きな問題となっています。
- ・長年の試験研究の結果、卵の消毒方法などが提案され実用化されたものの、未だ病気の根本解決には至っていません。
- ・また、従来の IHN は、約 3g サイズまでの小さなニジマスに対してのみ大きな被害を発生させていましたが、近年、原因ウイルスが日本国内で独自に進化した結果、
 - 出荷サイズ（100g）や大型魚（1kg 以上）での被害の発生がみられること
 - ウイルスの遺伝子型別に対策の有効性が異なることが指摘され、解決を困難にしています。
- ・そこで本研究では、養殖現場ですぐ活用でき即効性のある被害軽減対策の提案と実用化、及び将来的な IHN の根絶に向けた IHN 抵抗性家系の育種、を目標とします。



【期待される効果】

- ・作出した新品種は、富士養鱒漁業協同組合を通じ、県内業者に広く供給されます。
- ・生産者の経営が安定し計画生産が可能になることにより、県内養鱒業の生産量が増加するとともに、販売価格の安定が期待されます。

【年次計画】

小課題名	研究年度			研究内容
	29	30	31	
1. IHNV 株の収集とライブラリー化	○			IHNV 株の保存と特性評価
2. オーダーメイド治療による被害軽減	○	○	○	生産者別の対策検討
3. 根絶に向けた新品種開発		○	○	新品種候補の感染実験・評価

(作成 平成 29 年 4 月)